2023 年 4 月 15 日

専門委員会開催報告

専門委員会名	「原子力アゴラ」調査専門委員会
会議種別	本会議　幹事会　メール審議　その他*（第 3 回研究炉等検討・提言分科会） *分科会、WG 等具体的に記入のこと
開催日時	2023 年 3 月 27 日（月）10:00 ～ 12:00　メール審議の場合は開始、終了日を記入のこと
開催場所	オンライン開催
参加人数	12 名　中島（主査）、峯尾（幹事）、天谷、神永、曽野、中塚、永富、芳原、堀、求、与能本、綿引
議事	1.　前回議事メモ確認 前回会合の議事メモの確認を行った。コメントがあれば修正することとした。 2.　報告書目次案 資料 3-2 に基づき報告書の構成案について、芳原氏、堀氏より説明がなされ、以下のような議論があった。 ➢ 報告書の中で、試験研究炉が低リスクであることを示す指標として、何を用いるべきか。 ➢ 規制側に求めることだけではなく、事業者に求めることも記載すべき。 ➢ 事例としては、規制適用上の課題及び規制そのものの課題がある。記載ぶりについては、メンバーで割り振りして、チェックするのが良い。 ➢ グレーデッドアプローチとして規制基準で考慮されている内容が、どのような考え方に基づき決められているのかが不明確である。 3.　グレーデッドアプローチに基づく合理的な安全確保検討グループの検討状況 資料 3-3 に基づき原子力機構におけるグレーデッドアプローチに基づく合理的な安全確保の検討状況について、与能本氏より説明があり、以下のような議論があった。 ➢ 原子力規制の実務に関わっている者と安全研究に関わっている者との視点の違いがあるが、その両方の視点が必要と考える。現場の細かい点も必要だが、より幅広い施策等の検討も必要。 4.　今後の予定 今後の活動としては、若い方を中心に進めるのが望ましいが、次回までは現体制で実施する。今後の報告書の議論は、まずはメールベースで行うこととする。 米国より参加している中塚氏より、今後は米国（NRC）の状況についても情報提供をしていく予定であるとの発言があった。
備　考	

2023 年 4 月 15 日

専門委員会開催報告

専門委員会名	「原子力アゴラ」調査専門委員会
会議種別	本会議　幹事会　メール審議　その他*（第 2 回研究炉等検討・提言分科会） *分科会、WG 等具体的に記入のこと
開催日時	2023 年 1 月 27 日（金）15:00 ～ 17:00　メール審議の場合は開始、終了日を記入のこと
開催場所	オンライン開催
参加人数	11 名　中島（主査）、峯尾（幹事）、天谷、神永、曽野、芳原、堀、村尾、求、 与能本、綿引
議事	1.　前回議事メモ確認 前回会合の議事メモの確認を行った。コメントがあれば修正することとした。 2.　規制の改善及びその他改善すべき項目について（資料 2-3 及び 2-4） 前回に引き続き、規制の改善及びその他改善すべき項目について議論した。 ➢ 規制基準における用語「ループ」の定義と一般的な研究炉設備としての「ループ」との相違点及び今後の対応、定義の見直しの必要性について議論した。 ➢ 使用禁止の「表示」の使用前事業者検査の必要性、日常の規制検査としての取り扱いについて議論した。 ➢ 原子炉・核燃料使用・RI の多重規制の問題について、RI 製造などの照射物の取扱いなどを例として、議論した。 ➢ 研究炉の使用前事業者検査に関して、低リスク施設における検査の必要性、低リスクであることの確認方法について、その現状と課題を確認した。 3.　報告書目次構成案 資料 2-5 を用いて芳原氏より報告書構成案の説明があり、以下の議論がなされた。 ➢ 構成は、まず、あるべき行政の姿を示し、現状において今回集めた事例を紹介する。最後にまとめる、というもの。 ➢ 一番言いたいのは「研究炉に対する規制については検討の余地がある。」そういったことが可能な限り客観的情報だけ使って伝わるようにできればよい。 ➢ 一般の方を味方につけるのは大事だが、学会として発表する物なので原子力の専門家、当事者に向けたものとしていくのが良い。 4.　今後の予定 今後の予定として、報告書の目次構成案について芳原氏を中心に堀氏に手伝ってもらい修正いただく方向とした。
備　考	

2023 年 4 月 15 日

専門委員会開催報告

専門委員会名	「原子力アゴラ」調査専門委員会
会議種別	本会議　幹事会　メール審議　その他*（第 1 回研究炉等検討・提言分科会） *分科会、WG 等具体的に記入のこと
開催日時	2022 年 12 月 7 日（水）10:00 ～ 12:00　メール審議の場合は開始、終了日を記入のこと
開催場所	オンライン開催
参加人数	11 名　中島（主査）、峯尾（幹事）、神永、曽野、中塚、永冨、芳原、堀、村尾、求、与能本
議事	1.　プレ会合議事メモ確認 プレ会合の議事メモの確認を行った。コメントがあれば修正することとした。 2.　規制の改善及びその他改善すべき項目について 分科会メンバーより規制の改善及びその他改善すべき項目について紹介がなされ、意見交換がなされた。主な意見は以下のとおり。 ➢ 試験研究炉及び臨界実験装置の特徴を踏まえた規制が望まれるが、審査なり検査なりで何を重要視するかという根本的なところが理解されていないのではないか。出力についても発電炉や研究炉とは扱いを変えるべき ➢ 昔の顧問会がもっていたような審査のバランスをとる役割が欲しい。（一方で）現在の規制の課題は、規制する審査官の力量を挙げることや、基本的考え方も含めて、書類を整備するように規制委員会に提案していくことが重要。 ➢ 試験炉の構造基準規則は実用炉規則を基につくっているが改善すべき点がある ➢ 規制側が不確かさのことを制限なく追求できる形になっている ➢ 安全重要度と安全機能の定義は書き換える必要がある。米国や IAEA が書いている安全機能・安全重要度と異なる。新検査制度は米国のやり方（実用発電炉向け原子炉監視プログラム ROP）をとりいれているが、もっと根本である安全目標や公衆及び従事者に対する安全の考え方を入れていないので矛盾がある。このため米国の ROP が目指していた検査の合理化が全く入ってこない。 ➢ 規制庁の主張の引用については客観性が必要（公開の場とヒアリング） ➢ BDBA の設定に関する議論の必要性（リスクの適用、5mSv を閾値とすることの適切性、水炉・ガス炉・ﾅﾄﾘｳﾑ炉の違い） 3.　今後の予定 次回は、引き続き規制の改善及びその他改善すべき項目について紹介をいただき議論する。また、分科会報告書の目次について案の作成を芳原委員にお願いした。
備　考	

2023 年 4 月 15 日

専門委員会開催報告

専門委員会名	「原子力アゴラ」調査専門委員会
会議種別	本会議　幹事会　メール審議　その他*（研究炉等検討・提言分科会プレ会合） *分科会、WG 等具体的に記入のこと
開催日時	2022 年 8 月 30 日（金）10:00 ～ 12:00　メール審議の場合は開始、終了日を記入のこと
開催場所	オンライン開催
参加人数	13 名　中島（主査）、峯尾（幹事）、天谷、神永、曽野、中塚、永冨、芳原、堀、村尾、求、与能本、綿引
議事	正式な分科会活動に先立つプレ会合として、今後の活動を中心とした自由討論を実施した。概要は以下のとおり。 ○　主査のあいさつの後、自己紹介と規制に関わってきた経験の紹介、そこで得た問題意識と分科会で行っていく活動について出席者から用意した資料等を用いて説明がなされた。 ○　説明終了後、まず、現場での規制に関する改善が必要と考えられる具体的な事例を集めて共有することが重要で、どこが共通で違いはどこにあるかを認識することが重要であることで一致した。 ○　研究炉等の規制の基本的考え方を並行して議論することも重要とされた。 ○　議論を集中させるため、炉型は水炉に絞っていくべきとの意見があった。 ○　今後の作業として改善が必要な具体的な事例について各自が示すこととした。
備　考	